

問1 日清戦争後の講和条約を何という？

1. 日韓基本条約 2. 南京条約 3. ポーツマス条約 4. 下関条約

問2 明治時代、八幡製鉄所の建設や日本の重工業発展の基盤となった、戦争の勝利によって得た資金を何という？

1. 特別会計 2. 関税収入 3. 賠償金 4. 租税収入

問3 近代的な議会政治において、国民の声や意思を国政に伝えるために選挙で選ばれた人を何という？

1. 代表 2. 選任 3. 公選 4. 任命

問4 明治時代の軽工業において、大量に生産され主要な輸出品となった繊維製品の一つを何という？

1. 鉄鋼 2. 綿糸 3. 生糸 4. 機械

問5 大日本帝国憲法下において、貴族院とともに立法権を行使し、貴族院と対等な権限を持っていた国民の選挙で選ばれる議院を何という？

1. 衆議院 2. 貴族院 3. 参議院 4. 元老院

問6 1889年に公布され、天皇を国家の主権者と定めた日本の近代的な憲法を何という？

1. 大日本国国憲法 2. 日本国憲法 3. 五箇条の御誓文 4. 大日本帝国憲法

問7 明治政府が掲げた、国家の軍事力を強め経済を発展させるためのスローガンを何という？

1. 文明開化 2. 廃藩置県 3. 富国強兵 4. 殖産興業

問8 鹿鳴館で欧米の外交官らを招いて行われた、近代化をアピールするための社交行事を何という？

1. 文明開化 2. 舞踏会 3. 鹿鳴館 4. 欧化政策

問9 明治時代の殖産興業政策によって、企業が利益を目的として運営され、生産と販売が行われる経済体制のことを何という？

1. 計画経済 2. 重商主義経済 3. 資本主義経済 4. 市場経済

問10 明治時代の日本の社会や国際関係を鋭く批判し、多くの風刺画を残したフランス人画家は誰？

1. フェノロサ 2. ワーグマン 3. クラーク 4. ビゴー

問11 ペスト菌の発見や血清療法の開発など、細菌学の分野で世界的に活躍した医学者は誰？

1. 北里柴三郎 2. 高峰譲吉 3. 志賀潔 4. 野口英世

問12 小村寿太郎が外務大臣として、関税自主権の完全回復を実現した年はいつですか？

1. 1905年 2. 1911年 3. 1889年 4. 1894年

問13 1911年に日米通商航海条約を調印し、関税自主権の完全回復を達成した外務大臣は誰？

1. 桂太郎 2. 陸奥宗光 3. 井上馨 4. 小村寿太郎

問14 日清戦争後に結ばれ、日本が台湾などを清から割譲されることになった講和条約を何という？

1. アイグン条約 2. 北京条約 3. 下関条約 4. 南京条約

問15 1871年に明治政府が欧米へ派遣した、岩倉具視らが特命全権大使を務めた使節団を何という？

1. 岩倉使節団 2. 天正遣欧少年使節 3. 遣唐使 4. 遣隋使

答え合わせ・解説

問1	答え 4 下関条約	1895年に山口県下関で、伊藤博文と李鴻章によって調印されました。主な内容は、清が朝鮮の独立を認めること、台湾・遼東半島・澎湖諸島を日本に割譲すること、巨額の賠償金を支払うことなどでした。
問2	答え 3 賠償金	1895年の日清戦争に勝利した日本は、清から多額の賠償金を得ました。政府はこの賠償金を八幡製鉄所の建設費や、軍備の増強に充て、重工業を発展させるための資本としました。
問3	答え 1 代表	議会政治では、国民が直接全員で政治を行うことが難しいため、選挙を通じて「代表」を選びます。その代表が国会に集まり、法律を作ったり予算を議論したりすることで、間接的に国民の意思を反映させる仕組みをとります。これを間接民主制といいます。
問4	答え 2 綿糸	特に軽工業において、綿糸や生糸の生産は非常に重要でした。蒸気機関や機械製糸技術の導入により生産性が大幅に向上し、綿糸は日本経済を支える重要な輸出品として世界市場へと送り出されました。
問5	答え 1 衆議院	衆議院は制限選挙（直接国税を納める男子のみ）で選ばれた議員により構成されました。貴族院と対等な立法権を持ち、特に予算案については衆議院の議決が重視される仕組みとなっていました。
問6	答え 4 大日本帝国憲法	1889年に公布された大日本帝国憲法は、天皇を主権者としつつ、議会や内閣のあり方を規定しました。臣民の権利を認めつつも、法律の範囲内という制限がつくものでした。
問7	答え 3 富国強兵	富国強兵とは、産業を振興して国を豊かにし（富国）、軍備を拡張して国を守る力をつける（強兵）という政策目標です。これに基づき、地租改正による財政基盤の確保や、徴兵令による軍隊の編成が進められました。
問8	答え 2 舞踏会	外務卿の井上馨が建築した鹿鳴館において、西洋式の夜会や舞踏会が頻繁に開催されました。日本の要人や外交官が洋服を着て参加し、西洋風の生活様式を模範として披露しました。
問9	答え 3 資本主義経済	資本主義経済とは、民間企業が資本（お金や機械）を投資し、商品を生産して市場で売ることによって利益を上げる仕組みです。この過程で銀行などの金融機関や会社組織が発達し、日本は急速に工業化が進みました。
問10	答え 4 ビゴー	ビゴーは日本に滞在し、当時の政治や社会現象を独特のユーモアと鋭い風刺を込めて描き続けました。特に、強国への仲間入りを急ぐ日本政府の姿勢や、不平等条約改正をめぐる駆け引きなどをテーマにした作品は非常に有名です。
問11	答え 1 北里柴三郎	ドイツに留学してコッホに師事した北里柴三郎は、破傷風の血清療法を世界で初めて開発し、帰国後にはペスト菌を発見するなど世界を驚かせる業績を挙げました。医学教育や防疫の仕組みづくりにも尽力しました。
問12	答え 2 1911年	外務大臣であった小村寿太郎は、諸外国との粘り強い交渉を行い、1911年にようやく関税自主権の完全回復を成し遂げました。これにより、日本は外国の商品に対して自国の判断で関税をかける権利を取り戻しました。
問13	答え 4 小村寿太郎	外務大臣であった小村寿太郎は、諸外国と粘り強く交渉を重ねました。1911年にアメリカなどの各国と新たな通商航海条約を結ぶことで、ついに日本は関税自主権の完全回復を達成しました。
問14	答え 3 下関条約	全権大使の伊藤博文と陸奥宗光らが交渉し、1895年に下関条約が結ばれました。内容には朝鮮の独立の承認、賠償金の支払い、そして台湾、澎湖諸島、遼東半島の割譲が含まれていました。
問15	答え 1 岩倉使節団	岩倉具視を特命全権大使とし、大久保利通や伊藤博文ら主要な政治家が参加しました。アメリカやヨーロッパ各国を訪問し、現地での行政、教育、産業を学びましたが、不平等条約の改正交渉は失敗に終わりました。